

いのちと地域を守る

防災・減災のページ

103回巡回ワークショップ

@名取高 (岩沼)



学校で災害が起きた場合の対応について発表する大内さん

乳幼児向けの備え必要

学校に避難所を開設する時のポイント

●避難所運営の主役は避難者。地域の皆さんで協力を

●校舎の使い方は地域の皆さんと学校で事前に決めておく

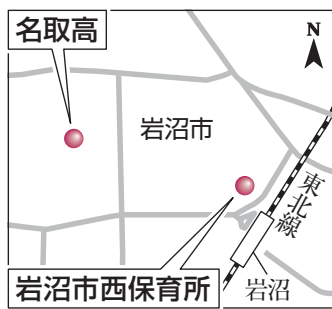
①立ち入り禁止箇所を決める
※重要書類のある職員室、校長室、危険物のある教室など②居住スペースを決める
※体育館、多目的室を活用する
※居住空間は通路を確保し、1人あたり2～3平方メートルが目安
※自治会単位で割り当て、要支援者に配慮して誘導する③共有スペースを決める
※運営本部、救護室、更衣室、授乳室、ペットコーナーなど

●学校再開時に支障が出ないように教室の使い方、動線に工夫を

●災害時、直ちにレイアウトを掲示できるよう事前に紙で準備を



校内の見取り図を使い、避難所のレイアウトを考えたワークショップ



名取高 岩沼市 東北線 岩沼 岩沼市西保育所

本年度は学校の防災対策をテーマに研究に取り組んだ。学校の災害備蓄品の内容や貯水槽の容量などを調べたほか、9月には西保育所を訪問して聞き取り調査した。

調査によって、自分たちが遊んだり、話したりすること、子どもたちの不安をなくせることが分かった。大人用トイレは幼児が使えないこと

メンバーは10月28日、同校であった宮城県高校家庭クラブ連盟研究発表大会に参加。研究成果を「もし学校で災害が起きたら、学校が避難所になった時を想定して」と題して発表し、最優秀賞を受賞した。県代表として12月の東北ブロック大会に参加する。

着替え ロッカーに常備

うか。床に座るのは足腰に負担がかかるので、椅子があるところ、年寄りには助かる。

寄り添いたくても、心の傷が深い被災者は対話に時間がかかる。一人では大変なので、グループでの対応が大事になる。日々の様子を記した日記がある



お年寄りはスリッパだと転びやすい。避難所開設を想定して、非常持ち出し袋に上履きを入れるよう、事前に呼び掛けてほしい。

災害で交通機関が止まった場合に備え、1泊2泊、学校で過ごしても大丈夫なように、着替えをロッカーに常備してほしい。

保田 真理さん(65)

東北大学災害科学国際研究所
プロジェクト講師

優しい声掛けで安心感

は十分喜ぶ。赤ちゃんは大きくなって清潔なブルーシートがあると、そこではいいがきである。授乳コーナーのように、母親のプライバシーが守れる空間もあるとありがたい。皆さんが子どもたちのことを真剣に考え、備えに取り組んでくれていて、とてもうれしかった。



遊び場所があれば、特別な物や道具はいらない。手遊びや歌、身近な物でできる遊びで子どもは十分喜ぶ。

吉田真由美さん(49)

岩沼市西保育所主任保育士

助言者から

東日本大震災をはじめとする自然災害の被災体験を振り返り、防災の教訓や課題を考えてみませんか。町内会や学校、職場など人数の集まりが対象です。開催費用は無料。随時、開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(21)15991。

学校に避難所課題探る

河北新報社は10月16日、通算103回目の巡回ワークショップ「むすび塾」を岩沼市の名取高で開いた。同校は市の指定避難所になっており、災害時は住民らと共に地域の保育所の子もたちが身を寄せる。高校生にできることは何か、家庭クラブと生徒会のメンバーが保育所の乳幼児の受け入れを中心に備えの現状と課題を語り合った。

むすび塾に参加して

●地域の連携大切 口にしても大丈夫な消毒液やキューブ型の粉ミルクがあることなどを

知り、視野を広げられた。避難してくる子どもたちのために不足している備蓄品を整えられないか、学校と相談したい。これからは学校周辺の地域の人たちにも協力をお願い掛けなど連携していきたい＝家庭クラブ・2年・菅井春花さん(16)

●部屋割りを確認 むすび塾で学校の備えや子どもの接し方を知ることができた。校内の見取り図を使い、誰をどこに誘導するか、居住スペースも確認できて良かった。普段から地域の行事に

参加し、地域の人たちと交流することも心掛けたい。学校で子どもを守る活動が今後も続いてほしい＝家庭クラブ・2年・大内万由子さん(17)

●日記で情報共有 心のケアのため避難者の様子を記すカルテのような日記を付けると情報共有できると

いう話が参考になった。私は一人っ子で子どもへの接し方が分からない。同じ目の高さにかがんで話し掛けるといいと聞いた。災害時にはアドバイスを生かし、子どもたちに接したい＝家庭クラブ・1年・中原希海さん(16)

●意識付けが重要 生徒会で校内をより良くしようと考えていた。家庭クラブが保育所の子

たちが学校に避難して来た時のことまで考えていたことを知り、地域に活動の視野が広がった。災害時に

高校生が主体的に動くには、一人一人の意識付けがとても重要になる。どう呼び掛けるか考えたい＝生徒会・2年・吉野武琉さん(17)

●子ども守りたい 学校が指定避難所とは知らなかった。高齢者や障害者への配慮など勉強になった。

生徒自ら校内の備蓄状況を把握して、避難してくる人たちが安心してできるようにしたい。東日本

大震災で断水や停電を経験し、大人たちに助けられた。次は自分たちが小さい子を守りたい＝生徒会・1年・佐々木颯太さん(15)

【注】生徒の希望により5人のコメントのみ掲載しました。

家庭クラブの活動



乳幼児の受け入れに必要な避難所の準備について調査する生徒(左)＝9月、岩沼市西保育所

保育所聞き取り 備蓄品など提案

名取高の家庭クラブは現在、133名の女生徒13人が所属している。以前から保育所や児童センターで子どもたちと遊んだり、福祉施設でお年寄りと交流したりしている。

本年度は学校の防災対策をテーマに研究に取り組んだ。学校の災害備蓄品の内容や貯水槽の容量などを調べたほか、9月には西保育所を訪問して聞き取り調査した。

調査によって、自分たちが遊んだり、話したりすること、子どもたちの不安をなくせることが分かった。大人用トイレは幼児が使えないこと

避難所開設時の活動として、自分の健康状態や被災者の心情とプライバシーに配慮しながら、手伝えることや困っていることがないか、声掛けすることを決めた。

名取高は電車通学が多く、電車が止まった場合に帰宅困難者となる生徒が44.5%に上ると判明。クラブは、生徒一人一人がウエットティッシュや非常食などを入れた防災ポーチを用意するよう呼び掛けている。

保田 真理さん(65)

東北大学災害科学国際研究所
プロジェクト講師